

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	みずほひじり保育園
活動日時	令和7年10月24日(金)
クラス名(年齢)	うさぎ組(2歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

どんぐりを拾ってみよう

<テーマの設定理由>

秋が深まり、落ち葉やどんぐりを見る機会が多くなった。子どもにとってどんぐりは魅力的なのだろう、「持って帰りたい」という声から、持ち帰ることにした。帽子がついた状態のどんぐりや、細長いどんぐり、丸いどんぐりなど、形も複数あり、拾う度に興味を示していた。

2. 活動スケジュール

保育園からほど近い公園(ビューパーク)へ散歩に行く。
公園内にある、広場に落ちているどんぐりを拾い、楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

どんぐり・(どんぐりを入れる)ビニール袋、カメラ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

天気も良く、穏やかな日に散歩に出かける。どんぐりが沢山落ちていることに気づく子どもたちの様子から、持ち帰ることができることを伝え、保育士が持つビニール袋に入れるよう、話をする。
どんぐりを拾い集めることはもちろん、どんぐりを拾って思ったことや感じたこと、気が付いたことなど、子どもの声に耳を傾ける。どんぐりだけでなく、帽子のついた状態のどんぐりを見つけ、他児に見せるなど、どんぐりを通してそれぞれに楽しみながら、興味を示す様子が見られた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

① 遊び場には数えきれないほどのどんぐりが落ちていた。子どもたちは「あった!」と言いながら、気に入ったどんぐりを次から次へと拾っていた。



② 小枝に付いたどんぐりを発見!! 「これ、見て」と、何やらすごいものを拾ったかのように嬉しそうに保育士に見せに来る。保育士のみならず、他児にも見せ、子ども同士で小枝に付くどんぐりの様子を眺めていた。



③ 拾ったどんぐりを保育士が持つビニール袋に入れる。段々と集めたどんぐりがビニール袋に溜まると「いっぱいだね」と、さらに集めようとしていた。



④ ビニール袋の中、いっぱいになったどんぐりを見せると「わ〜っ!いっぱいだ!」と、歓声を上げていた。「今度、みんなで拾ったどんぐりで、遊ぼうね」と話すと、何をして遊ぼうか、ワクワクした様子だった。
※拾ってきたどんぐりは、部屋の前のテラスで数日間、天日干しをする。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

どんぐりに興味を持つ子の姿を知り、クラスでもどんぐりにまつわる絵本を読んだり、季節の歌として、「どんぐり」の歌を歌った。どんぐりに身近に触れることができ、色々な形があることや、元は木に付いているもので、小枝から帽子にくっついた状態であることを知り、新たな発見をした子がいた。子どもたちの「たくさんどんぐりを集めたい」という思いから、ビニール袋は丈夫なレジ袋、あるいは複数枚用意した方がよかった。拾い集めたどんぐりを見て、子ども自身の思いや気づきの言葉を聞くことができた。また、自分たちが拾ったどんぐりを使って何をしたいか、期待する様子も見られた。次回はどんぐりを使った“音”を探し、楽しんでいきたい。